

クリオグロブリン				2102000	
				担当部署	
クリオグロ				一般	
検査オーダー					
患者同意に関する要求事項		特記事項なし			
オーダーリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*2.分野別→免疫・自己抗体→			
	2				
	3				
	4				
	5				
検査に影響する臨床情報		1) クリオグロブリンの形成は室温以上でも起こるので、血清の採血から分離までの間は保存温度に注意する。 2) フィブリンなどがあると沈殿物が認められるが、これらは 37℃に加温しても再溶解しないので判別可能である。			
検査受付時間		8 : 45～16 : 00			
検体採取・搬送・保存					
患者の事前準備事項		空腹時			
検体採取の特別なタイミング		特記事項なし			
検体の種類		採取管名	内容物	採取量	単位
1	全血	1 2 茶	なし	10	mL
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
検体搬送条件		保温 (37℃) 採血後すぐに中央検査部に送る。送るまで人肌程度の湯につけておき、保温できるものに包んで送る。日勤帯 (8 : 45～16 : 00) に限る。 受取後は直ちに 37℃恒温槽に入れる。			
検体受入不可基準		1) 採取容器違いの検体 2) バーコードラベルの貼られていない検体			

	3) 量不足 4) 保温されていない検体 5) 強度溶血検体 6) 強度乳び検体								
保管検体の保存期間	保存不可								
検査結果・報告									
検査室の所在地	病院棟 3 階 中央検査部								
測定時間	1～7 日								
生物学的基準範囲	(-) EX 一般 228 : 検査項目解説 改訂第 4 版 三菱化学メディエンス								
臨床判断値	該当なし								
基準値				単位	なし				
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値				
設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし				
パニック値	高値	該当なし							
	低値	該当なし							
生理的変動要因	特記事項なし								
臨床的意義	クリオグロブリンは血清を低温(4℃)に放置したとき、白濁またはゲル化し、37℃に加温すると再溶解するという可逆的変化を示す。本体は病的免疫グロブリンであり、タイプⅠ（モノクローナル型）、タイプⅡ（モノクローナルとポリクローナルの混合型）、タイプⅢ（ポリクローナル混合型）の 3 つのタイプに分類される。								